

令和元・2年度

文部科学省「人権教育研究指定校事業」

研究紀要



【研究の発端と経緯】

- ・ 平成30年度の教育課題・「自尊感情・自己肯定感の育成」
- ・ 令和元・2年度の学校教育目標・「笑顔と夢がいっぱいの西野っ子」
- ・ 文部科学省「人権教育研究指定校事業」の委託



南種子町立西野小学校

I 研究の全体構想図



II 目指す子供像 一言で表すと、

【ひとみ】 ひとみがきらきら輝いている子供

具体的には、

- 【自分】 自分のよさが分かり、自分の気持ちを伝えられる子供
- 【他人】 友だちのよさが分かり、称賛できる子供
- 【仲間】 お互いの違いを認め、高め合う子供
- 【行動】 おかしいことは、「おかしい」と言える子供

III 研究の仮説と研究の内容

[研究の仮説]

[研究の内容]

人権尊重の観点から指導計画を見直して総合的に取り組むことで、人権教育を計画的・有機的に行えるようになり、児童の自尊感情や自己肯定感を高めることができるのではないか。



- 人権教育推進の計画の策定
- 「学級」の推進
- 「授業」の推進
- 「環境」の推進

IV 人権教育推進の計画

一年次は、自尊感情を高める視点を重視した授業に力点を置いて実践を積み重ねてきた。取り組む中で、二年次は、人権教育をもっと意図的・計画的に行っていないと子供たちの自尊感情を高めていくことはできないという反省があがった。そこで、人権教育の視点から教育課程を見直して計画的・有機的に実践することが重要であると考え、以下の年間計画を作成した。この計画を基本にしながら、その時の子供たちの実態や状況に応じて臨機応変に計画を工夫・改善して実行してきた。

授 業

1 令和2年度 年間計画

月	主な行事	関連行事	なかよしタイム(輪活)	学級活動	道徳
4	入学式 始業式 家庭訪問	13 いじめ問題を考える週間	人権に関する知的理解	人権学習(全) 「人権って何だろう?」	※学級で実施 低: みんなのよいところは
5	修学旅行 授業参観 学級PTA	11 「学校楽しいと」実施 20 児童総会	27 ヘリウムリング (協力)	性に関する指導 (学級)	中: 友達のいいところを見つけよう
6	水泳学習 スケッチ大会	16 教育相談 人権感覚の涵養	17 負けるが勝ち 勝利集め	人権学習(全) 「どんな気持ち?」	高: 友達のいいところを探そう
7	棒踊り 校内水泳大会 終業式	※8月 人権同和教育啓発 月間	15 じゃんけん肩たたき	よい言葉遣い(アサーション トレーニング) (学級)	
9	始業式 運動会練習 運動会	2 いじめ問題を考える週間 20 運動会	年3回の実施 教育相談, 学級PTA	人権学習(全) 「もやもやがき」	2学期の流れ 各学級での取組 (行事・教科等+ 道徳+学活) まとめ・報告 人権集会で発表 (各学級1~2人) 人権作文作成 →生涯学習作文(1月)
10	秋の一日遠足 御崎神社大祭 陸上記録会	19 「学校楽しいと」実施 20 教育相談	7 風船送り	SST(学級)	
11	県民週間 町音楽発表会	2 子どもたちの男女共同参画学びの広場推進事業 14 西野フェスティバル	18 今日の気分は?	性に関する指導 (学級)	
12	人権集会① 校内持久走大会・学級PTA 終業式	1 校内人権月間 8 修学旅行 人権同和教育啓発 月間	9 人間知恵の輪 人権感覚, 実践行動への意欲付け	人権集会(全) 「人権作文発表」	
1	始業式	12 いじめ問題を考える週間	20 いいところみつけ でビー玉いっぱい しよう	人権学習(全) 「いいところさがし」	※ 学級で実施
2	人権集会② なわとび大会	8 「学校楽しいと」実施 19 学級PTA	10 自分らしさ説明書	性に関する指導 (学級)	
3	卒業式・修了式	5 お別れ遠足		自分の成長を確かめよう (学級)	

V 研究の実際

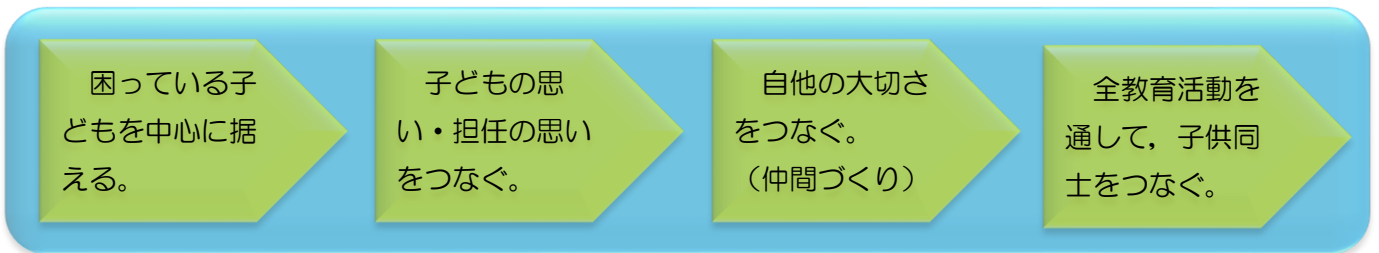
1 学級づくりの取組

(1) 学級づくりに係る基本的な考え方

「学級の歩み」

ねらい：共感的・支持的な人間関係を育むための学級経営。具体的には、

- Mom（学級・一人一人の子供を見つめ、思いをめぐらせ、向き合う）の基本姿勢の下に、
- 子供たちが、「自分たちの学級だ。自分たちで動くのだ。」という思いで、子供たちが主体的に仲間づくりをすすめるため。
- 教職員が、学級の課題を成果にしていけるよう、子供の声（本音）に沿った学級をつくるため。



第1・2学年「学級の歩み」 (令和2年度)

○ 大切にしたい学級集団のよさ	■ 取り組むべき学級の課題
<全体> ・ 学年関係なく、仲良くお話をしたり遊んだりする姿が見られる。 ・ 素直で明るい。(挨拶・返事がいい。) <1年生> ・ お互いが何でも意見を言い合える。 <2年生> ・ 周りを見て、行動ができる。 ・ 互いに競い合い、高め合う。	<全体> ・ 言葉使いが気になる。 ・ ヘアを作る際に、同じメンバーになる。 ・ 自尊感情が低い児童がいる。 ・ 承認欲求が強い。(他者と比較する。) <1年生>・ 児童同士で、教え合う際の言葉遣い。 <2年生>・ 自分の意見を言えない児童がいる。(相手の意見を聞けず、自分の意見を通す児童がいる。) <気になる子ども> ○年(□さん、△くん) ○年(□くん、△くん)

担任の思い「児童一人一人が居心地のよさを感じる学級。自分に自信をもち、いろいろなことに挑戦する学級。」	
学級でとりみたいこと・とりくんだこと	子どもたちの様子
6月 ◎ 友達によさやよりよい関係について考える活動。 ◎ 自他のよさを認め合う活動。 ① 保護者に協力してもらい、児童のよいところをアンケートに書いてもらった。 ② ○○学級の子供たちや学習・生活について話をした。(○○学級の保護者の思いを手紙に書いてもらった。) ③ 学級のみんなのよいところを伝え合い、これからのような学級にしたいか考えた。 ◎ 人権に関する本の読み聞かせを行った。「おれたちともちシリーズ」[教室は間違ところだ]	① 毎日一緒に過ごしている友達でも、知らないよいところがあることに気付いていた。「□くんこれができるの?!」など ② ○○学級の児童に、積極的に話しかける姿が見られるようになってきた。 ③ 「みんなが楽しいと思う学級にしたい。」「助け合う学級にしたい。」と感想を書いていた。 ○ 1回目の授業を通して、児童一人一人が、誰かのためになにかをしようとする行動が多く見られるようになってきた。また、お友達のいいところをたくさん見つけることができていた。 ○ 読み聞かせをした本のシリーズを、児童が積極的に借りたり、読んだりする姿が見られた。また、読み聞かせの後に感想を聞くと、「間違ったり、失敗したりすることは誰にだってある。」「一生懸命することが大事。」ということに気付いていた。

○○学級の歩み (令和2年度)

○ 大切にしたいよさ	■ 取り組むべき課題	< 気になる子ども >
○ 自分の気持ちが明白。人の意見に左右されない。 ○ 学校生活を楽しみたいと思っている。 ○ 交流学級の友達と楽しく遊んだり話したりしようとしている。	■ 周囲を見て行動ができるようになる。 ■ 人の気持ちを考えた言動ができるようになる。 ■ 感情のコントロールができるようになる。 ■ 周囲の理解を得る。	□年A 人と関わるのが苦手。こだわりがある。 □年B 自分の思い通りにならないとすぐ怒ってしまう。学習への関心が低い。 △年C 学校生活のルールを理解したり守ったりすることができない。自分本位の行動が多い。

教職員の思い：自分や友達によさに気付き、いきいきと学校生活を送ってほしい。

とりみたいこと・とりくんだこと	子どもたちの様子
自らの学級を見つめ、「自分たちの学級だ。自分たちで動くのだ。」という思いで、子供たちが主体となって取り組むために、教員の思いを大切にす。【子供の声（本音）に添った学級づくり】 ・ 交流学級で自分のよさを家族と一緒に探し、知らせる中で、友達のよさにも気付くようにした。 ・ 道徳の授業を実施した。 ・ 保護者の手紙を読むことで児童理解を深められるようにした。	・ 毎日過ごしていても知らないことがたくさんあることに気付き、友達のいいところに気付くことができた。 ・ 友達に優しく声かけされるが増え、嬉しそうに過ごすことが増えた。

次年度につなげたい西野小の良さ・課題

良さ 子供たちが、学級をどのように見つめているかを子供たちの言葉で明らかにする。
課題 学級づくりに係る担任や子供たちの思いや実態を、次年度へ引き継いでいく。

本取組は、学期末ごとに、取り組みたいことや取り組んだこと、子供たちの姿等を書き加えていき、「つなぐ」という視点から、自他の思いや教育活動が繋がっているかを見直し、次学期・次年度の教育活動に生かしていく。そして、一人一人の児童及び学級の歩みの様子を職員研修で取り上げ、全職員で情報交換を行うとともに、それぞれの関わり方について検証する機会としている。

(2) 学級づくりの実践「もやもや書き」から本音を出せる取組へ

人間には様々な感情がありどれも自分にとって大切なものであることを知り、もやもやした気持ちを文字に表出することで、自分の感情や行動を自制する力を高めることは、児童が自らの思いや考えを伝え合う今後の人権学習で必要不可欠な学習であると考えた。

実 際

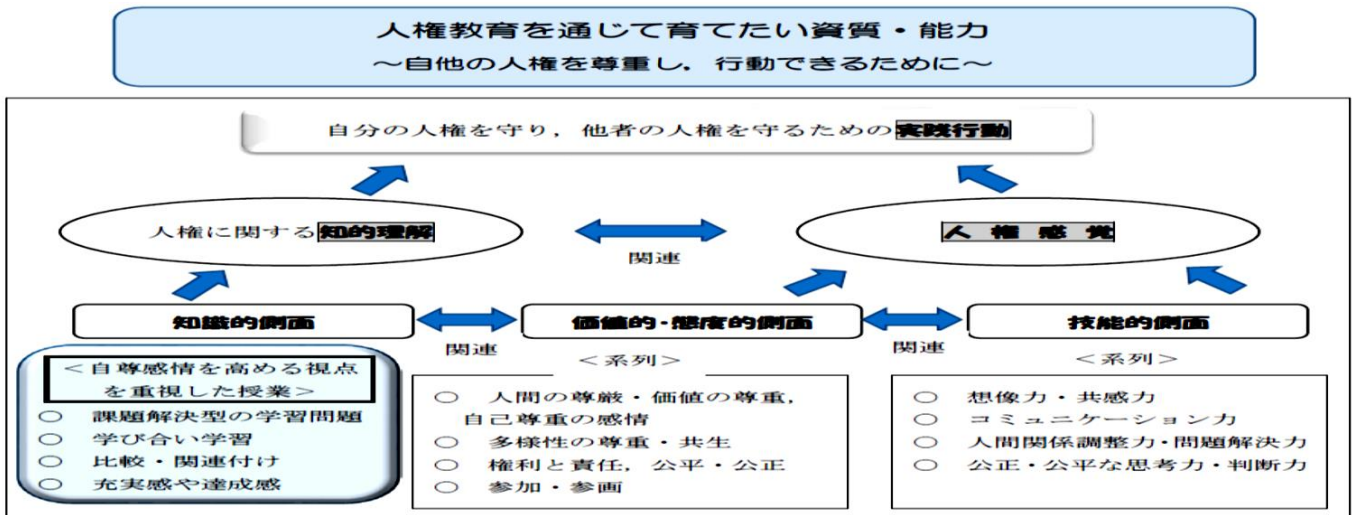
主な活動	教師の主な発問・児童の反応 (T:教師, C:児童)
<p>1 めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分の気持ちをみつめてみよう。</div>	<p>C これまで、人権とは、全ての人が生まれながらにもっている大切なものであることを学習しました。</p> 
<p>2 グループで、気持ちの仲間分けをする。</p> 	<p>T いろんな気持ちをした人のカードがあります。どんな気持ちなのか、各グループで仲間分けゲームをします。</p> <p>① 封筒の中に、白黒 16 枚の紙が入っているので、4つの仲間に分けてね。</p> <p>② どんな気持ちの仲間か、名前(タイトル)つけてね。</p>
<p>3 仲間分けの発表をする。</p>	<p>T K君のチーム、どんな仲間分けをしたか教えて。</p>
<p>4 これまでの学習のまとめをする。</p> 	<p>T 他の名前で分けたグループは、教えて。</p> <p>T 人の気持ちって、受け取り方が違うよね。楽しいだけの人はいらる? いつも困っている人はいらる? いつも怒っている人はいらる?</p> <p>自分の気持ちは、これもある、これもある。全部あるよね。それが、自分の気持ちなんです。</p> <p>T 私は、子供の時、～な子供で、学校では～が嫌でした。家では～が嫌でした。先生には、～を言いたいでした。子供の時は、こんな自分が嫌な時がありましたが、大人になった今では、全部が自分の気持ちだから、それでOK!と思えるようになりました。全ての気持ちが大事です。</p> <p>T これからは、自分の気持ちを見つめて、こうすればよかったと、気持ちをコントロールできるようになるといいですね。</p>
<p>5 各学級で、もやもや書きをする。</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">担任自らの「もやもや書き」提示</div>	<p>T みなさんが、どんな気持ちをもっているか、「もやもや書き」をしてもらいます。もやもやした気持ちを書くと、すっきりします。自分の気持ちを見つめ、もやもやしていることを、各学級の教室で書きます。</p>
<p>6 まとめをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○ 人には、いろいろな気持ちがあり、どれも大切です。</p> <p>○ もやもやした気持ちは、吐き出さないといけません。今後も、もやもや書きを続けていきましょう。</p> </div>

成果と課題

- 子供たちに本音を出させるためには、指導者自らが本音を出さないといけないことを改めて実感した。
- もやもや書きには、不快感情を吐き出して心の安定を図る意義があると思うが、こんな感情の場合はこうするとよいなど、ソーシャルスキルトレーニングなど感情の対応スキルの学習と関連付けながら継続するとよい。
- △ もやもや書き(児童の訴え)の後、担任は児童の思いをどう受け止めて対応していくのかを大事にしたい。→この後、児童と個別に個人面談を実施し、保護者との教育相談を実施した。

2 授業づくりの取組

(1) 人権教育の視点を重視した「授業づくりの視点」の作成



【「人権に関する知的理解」からの視点】(一部)

視 点	内 容
自分の役割	集団や様々な人間関係における自分の役割に気付くとともに、周りの人のために役に立っていることを理解させる。
自分の個性と多様な価値観	自分の考え方や行動そのものよさを理解するとともに、周りの人の多様な考え方を知り、受け止めさせる。
他者とのかわわりと感謝	多様な集団の中で活動し、人とのかわわりを広げるとともに、周りの人の支えがあって自分の活動が充実していることを理解し、感謝の気持ちをもたせる。
概念への理解 A	自由、責任、正義、平等、尊厳、権利、義務、相互依存性、連帯性等の概念の理解
条約や法令等に関する知識	憲法と関係する国内法及び「世界人権宣言」その他の人権関連の主要な条約や法令等に関する知識

【「人権感覚」からの視点】(一部)

視 点	内 容
自分への気付き B	自分ができたことや頑張ったこと、得意なこと、よさ等に気付くとともに、自分の行動や考え方を受け止め、自信をもたせる。
自分の可能性 C	自分の行動の達成感を感じるとともに、失敗や困難は自分一人だけではないという安心感をもち、努力すればできるという自分への可能性をもたせる。
自己存在感の高揚 D	「授業に参加している」という実感をもたせる。 「自分が必要とされている」という実感をもたせる。 教師自身が一人一人を大切にすることを示す。
自己選択・決定の場の設定 E	学習課題や計画を選択する機会を提供する。 学習内容、学習教材を選択する機会を提供する。 学習方法を選択する機会を提供する。 表現方法を選択する機会を提供する。 学習形態や場を選択する機会を提供する。 振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。

(2) 実践例

○ 第3・4学年算数科学習

第3学年「たし算とひき算」

第4学年「1けたでわるわり算」

本時の実際

過程	教師の働きかけ (@評価 人権教育の視点)	主な学習活動	時間	主な学習活動	教師の働きかけ (@評価 人権教育の視点)	過程
つかむ	・ 前時までの学習を振り返り、本時の課題が何であるかをつかませる。 D E	1 学習課題をつかむ。 次の計算のしかたをせつめいしましょう。 ① 865+746 ② 1248-936 ③ 1000-895		1 学習課題をつかむ。 80まいの紙を、2人で同じ数ずつ分けよう。1人分は何まいになるでしょう。	・ 立式させ、かけ算九九では答えが出ないことに気づかせ、課題を焦点化する。 D E	つかむ
見通す	・ <u>子どもたちの言葉を大切に学習課題を設定する。</u> D E	2 学習課題を設定する。 大きな数の計算は、どのようにしたらよいのだろう。	5	2 学習課題を設定する。 わられる数が何十のわり算は、どのように計算したらよいのだろう。	・ <u>子どもたちの言葉を大切に学習課題を設定する。</u> D E	見通す
	・ 解決のために大切な言葉を考えさせ、見通しをもたせる。 B C	3 解決の見通しを立てる。 ・ 2けたと計算とにできる		3 解決の見通しを立てる。 ・ 何十を使った加減乗の計算のしかたを想起させ、解決の見通しをもたせる。 B C		
調べる	・ <u>計算の手順を丁寧にやさしくしながらノートに整理できるように支援する。</u> D	4 自力解決		4 自力解決	・ <u>図や絵を使って分かりやすく考えをまとめることができるよう支援する。</u> D	調べる
	・ <u>お互いの考えを確認させて、全体への発表の準備をさせる。</u> D	5 ペアでお互いの考えを説明し合う。	15	5 ペアでお互いの考えを説明し合う。	・ <u>友達と考えが似ている所、違う所を考えさせながら聞くようにさせる。</u> D	調べる

○ 学級活動 (全校人権学習:人権ってなんだろう)

過程	主な学習活動	時間	教師の働きかけ
導入	1 簡単なアイスブレイキングをする。 B ・ 集団じゃんけんゲーム	5	・ 緊張をほぐし、活動しやすい雰囲気づくりをする。職員も入る。 ・ ルールをしっかりと確認し、一人でできない児童にはサポートをする。
展開	2 学習のねらいをつかむ。 (1) 地球上にはどんな人がいるかを考える。 (2) すべての人に「人権」があることを知り、めあてをたてる。 「人権」ってなんだろう。	10	・ 性別、国籍、見た目、障害、人種など様々な視点が発 差別や仲間外れをしない。安心して生活できること。 しながら ・ 持っている必要不可欠な様々な権利。児童にも分かりやすく伝えるために、「生まれた時からだれもがもっている大切なもの」「一人の人間として大事にされること」など理解できる言葉で伝える。 ・ 戦争、貧困、虐待、いじめ、差別などによって人権侵害が引き起こされることを知らせる。 ・ 世界人権宣言、日本国憲法の条文を知らせる。
展開	3 人権について、考える。 A (1) 「人権」とは？ (2) 人権が守られないとは？差別について知る。 (3) 「人権」は法律などにも定められていることを知る。	15	
展開	4 西野小学校でできることを考える。	10	・ プリントに記入させる。1年生は、き取り、記入してあげる。
終末	5 まとめをし、感想を発表し合う。	5	・ 人権を守るためにできることを発表し合う。 見た目では判断しない。一人一人を大事にする。
終末	人権とは人として大事にされるということ。すべての人には人権があり、差別やいじめは許されない。		・ 本時の感想をまとめ、発表させる。 ・ 感想をプリントに記入し、提出させる。 ・ 子どもたちの感想を職員で交流した後、「マイブック」にとじこませる。

後略

3 自尊感情を育む環境づくり

(1) 異年齢集団による人間関係づくり

ア なかよしタイム

ねらい：ゲームや構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング、アサーショントレーニング等の活動を通し、仲間づくりを積極的に行なわせるとともに、基礎的な人権スキルを身に付けさせる。



ヘリウムリング（協力）

お互いの気持ちをそるえるゲーム



人間知恵の輪（連帯）

協調性や連帯感を育むゲーム



サイコロトーク（会話）

お互いのことをよく知り合うゲーム

イ 人権集会

これまでの取組が、人権に関する知的理解や人権感覚の涵養にとどまっていたことから、人権を子供たちがもっと身近に捉え、自分たちの生活に活かしていこうとする実践的な態度を育成していきたいという願いから、本集会の取組を行った。

ねらい

- (ア) 学校生活を振り返らせ、「人権」について考えさせる。
- (イ) 学校生活を振り返らせ、「人権」に「わたしメッセージ」、「あなたメッセージ」の理解を深め、日常でも「わたしメッセージ」を使い、自分の気持ちを伝えようとする意欲をもたせる。

実行委員の願い

- ・ 友達ともっとなかよくしたい。
- ・ 教室に「わたしメッセージ」を多くしたい。
- ・ 人権は、私たちの身近なものだということをみんなにも知ってほしい。 など

主な活動

主な活動	児童の発言や留意点 (T:教師, C:児童)
1 はじまりのあいさつ 2 アイスブレイキング 「人間知恵の輪」 3 人権劇 「教えて、仲良し名人さん」 何があったのか、ちゃんと確かめなかったんだね。 時を戻してあげるから・・・	児童の発言や留意点 (T:教師, C:児童) C: 実行委員は、人権を守る活動をする人たちのことです。 C: 心をほぐすために、アイスブレイキングをします。 < 劇のあらすじ > 二人の友達がAさんの悪口を言っている。それを聞いたBさんは、なんとかしないといけないと思い、悪口のことをAさんに話した。二人の友達とAさんはけんかになってしまう。 そこへ、Bさんのもとへ仲良し名人さんが現れ、違う方法を教えて時間を戻してくれた。二人は、Aさんににらんだ理由をきいたところ、二人の勘違いだということが分かった。

4 劇の中の会話文を、 あなた・わたしメッセージに分ける。	あなたメッセージ(一部)	わたしメッセージ(一部)												
	わたしの悪口言ったでしょう！	わたし、Aさんをにらんでいないよ。												
5 人権アンケート結果	あなたが悪いんじゃない！	にらまれたと思ってどきどきしてた。												
	C: けんかしても、「わたしメッセージ」を使うときっと解決できますよ。 「わたしメッセージ」を広げていきましょう。													
<p>西野小学校は 人権が まもられていると思いますか？</p> <table border="1"> <tr> <td>はい</td> <td>いいえ</td> <td>わからない</td> </tr> <tr> <td>8人</td> <td>13人</td> <td>11人</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>はい</td> <td>・みんな なかよく あそんでいるから ・わたしメッセージを つかっているから ・人権を がんばっているから</td> </tr> <tr> <td>いいえ</td> <td>・あなたメッセージを つかっているから ・こわい言葉、いやな言葉をつかっているから ・けんかや ぼろよくが あるから ・いじめている人 をみるから ・グループを作っているから(なかまはずれ) ・こそこそ話をしている(わるくち?)</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>・けんかしたり、なかよくしたりしている ・気にしていない ・びょうな かんじ</td> </tr> </table>	はい	いいえ	わからない	8人	13人	11人	はい	・みんな なかよく あそんでいるから ・わたしメッセージを つかっているから ・人権を がんばっているから	いいえ	・あなたメッセージを つかっているから ・こわい言葉、いやな言葉をつかっているから ・けんかや ぼろよくが あるから ・いじめている人 をみるから ・グループを作っているから(なかまはずれ) ・こそこそ話をしている(わるくち?)	わからない	・けんかしたり、なかよくしたりしている ・気にしていない ・びょうな かんじ	C: 嫌な言葉No.1の「ばか」「しね」をどうして言ってしまいましたか。 C:けんかで叩かれてしまったから。むかついて、つい言うってしまう。 T: 肌の色で嫌な思いをしたことがある人、話ができますか。 C:西野小ではないけど、キャンプなどでからかわれた。 T: 人と違うことでからかってはいけませんよね。世界人権宣言にも、そのことが書いてあります。辛い思いをしたんだね。 C: 人権を守るために、どんな取組ができますか。 C:わたしメッセージで気持ちを伝える。 C:自分がされていやなことを人にしない。 ・ 「悪口と なかまはずれ ゆるさない」 ・ 「広げよう 心を伝える わたしメッセージ」 ・ 「伝えよう 自分の言葉で 『ありがとう』」 など	
	はい	いいえ	わからない											
	8人	13人	11人											
	はい	・みんな なかよく あそんでいるから ・わたしメッセージを つかっているから ・人権を がんばっているから												
	いいえ	・あなたメッセージを つかっているから ・こわい言葉、いやな言葉をつかっているから ・けんかや ぼろよくが あるから ・いじめている人 をみるから ・グループを作っているから(なかまはずれ) ・こそこそ話をしている(わるくち?)												
	わからない	・けんかしたり、なかよくしたりしている ・気にしていない ・びょうな かんじ												
	6 人権標語の発表													

人権集会後の児童の主な感想

- ・ 「それ違うよ。」と言われるのが嫌です。理由は、一人一人考え方が違うからです。自分がもし今日の劇のようなことをされたら、今日みたいにする。次からけんかのときは、「あなたメッセージ」ではなくて「わたしメッセージ」で言うようにしたい。けんかを「わたしメッセージ」で解決したい。
- ・ 人権は大切なものだなあと考えた。人権は、一人一人が守ればできるけど、それが意外と難しいんだなと思った。
- ・ 今日の感想を言えずにいたので、ここで言います。ぼくは、命令されたり、黙れと言われてたり、うるさいと言われてたり、死ぬと言われてたりしたことが一番嫌でした。これからは、「あなたメッセージ」ではなくて、「わたしメッセージ」を使える西野っ子になってほしいです。これからは、人をばかにしないで、「わたしメッセージ」を使えるようになりたいです。

人権集会後の職員による成果と課題

- 人権集会は、子供の心を動かしたという貴重な取組になった。以下の姿でよく分かった。
 - ・ 実行委員会のメンバーに自ら立候補して、集会を自主的に企画・準備・運営した子供たちの姿。
 - ・ 集会時、生き生きと発表したり、劇で思いを演じたりした子供たちの姿。
 - ・ 集会後の感想で明らかになった子供たちの実践しようとする姿。
- 本集会やこれまでの取組を通して、子供たちの人権に対する意識が向上してきている。
- △ これまでの研究で学んだことが点で止まってしまうよう、線でつながられるよう継続する実践力を教児ともに身に付けたい。
- △ 男女・高齢者・障害などの様々な差別問題についても学習し、自分たちとの問題と重ね合わせられるような取組が行われるようになるとよい。

ウ 人権学習

授業の目的

最も身近な性別に係る人権問題について当事者意識をもって考えることができる男女共同参画の学びを通して、子供たちの自尊感情や自己肯定感を高めるとともに、教職員や保護者、地域が一体となって人権意識や男女平等意識の醸成を図る。

主な内容

主な場面	大事にしたい言葉や見方・考え方
<p>「違い≠間違い」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 発表が苦手な人は、発表した時に、違いを人の前で笑われたり、間違いだと指摘されたりするなどしたことで発表しなくなった。「違い≠間違い」ではない。いろいろな違いがあるから、学校は楽しい。『違いこそが宝物』違いに気づき合いながら、初めてのことや慣れていないことにチャレンジしてほしい。難しいから楽しかった、頑張るぞと思えるようになってほしい。 学校は、学び合い、助け合って生活できる場所だ。そんな学校にしてほしい。
<p>YOUメッセージとIメッセージ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 人と自分の意見が違う時に、「あなたメッセージ」で、違うよ、おかしいよなど目立っているところだけを相手に伝えてしまう（渡している）ことが多い。そうすると、相手は傷付けられてしまう。違っていても大切にできるようにするには、「後ろの理由」が大切だ。「違っていても当たり前を重ね合わせて、新しい力にしていこう」ということが、人権の考えだ。 「あなたメッセージ」だと、「あなたメッセージ」で返してしまう。「わたしメッセージ」を使ってほしい。
<p>同質性と排他性 人権とは</p>  	<ul style="list-style-type: none"> 世の中には外国の人など日本語を話せない人もいる。あきらめていたらグループ分けはできない。しゃべれないなら、どうしようとする力は、大切な力だ。違う考えだから無理ですね、ではいけない。 形は同じだけ色が違う。目立つことを違いとして見る。目立つことに注目すると、それ以外を考えなくなる。そのことを乗り越えていかないといけない。 その人の目立ったことに注目して、相手を決めつけることが多い。例えば「男のくせに、女のくせに」。みんなは生まれるときに、男（女）に産んでくださいと男（女）を選んで生まれてきた人いますか。自分で選んでいない性別や障害、国ではなく、その人の一部が女性（男性）である。その人を、その人の一部分だけで見ていないかな。人権は、人間の一部分で決めつけてはいけないということだ。人間を色々な面で見るとを学んでほしい。

児童の主な感想

- 「わたしメッセージ」を使うと、はずかしいけど相手が嫌な気持ちにならないで、自分の意見をはっきり言えることが分かりました。
- 今日の人権学習で、頭のはじっこにいた人権が、大切なものだということが分かり、頭を中心にきた気がしました。人権は奥が深く、守られているのではなく、守っていくことが大切なんだなと思いました。
- まとめることや声に出すことが苦手でも、めぐ先生は、「はっきり声に出してもいいんだよ。」と教えてくれました。それで、みんなの前で集会の時に発表が言えました。はずかしくなくなりました。

VI 成果と今後の課題

1 成 果

- 人権尊重の観点から指導計画を見直して総合的に取り組んだことで、人権教育を計画的・有機的に行えるようになってきている。
- 学校の教育課題の解決と学校教育目標の具現化及び研究主題が有機的に関連しているので、全職員が関わって取り組むことができた。
- 児童は、自他のよさを認めつつ、笑顔が増え、学級・学校生活をより楽しんでいる。
- 児童が、人権集会等の企画・運営に自ら参加することで、自他を大切にす実践行動ができるようになってきている。

2 今後の課題

- 人権教育は、全ての教育活動を通して行うことが重要である。これまでの実践を総括して、人権教育の年間計画を見直し、充実させていく。また、一年後の児童の変容がより大きくなるように、これまでの実践を基に、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング、アサーショントレーニング等を盛り込んだ年間計画を作成する。
- 自尊感情の高まりは、学力・体力・気力・人間関係調整力等、学校教育目標を具現化していくための基盤になると信じて実践を積み重ねてきた。学力に関しては向上の傾向にあるが、少人数で一年間だけ在籍する宇宙留学生がいることから、確かな見取りは難しく、更なる指導法の改善に努めていきたい。
- 人権教育の観点に基づく研究を踏まえ、今後、人権教育の内容や課題についても吟味し、学年の発達の段階に応じて、意図的・計画的に教育課程に位置付け、充実を図っていきたい。

<< 参考文献 >>

- | | |
|------------------------------|-----------|
| ・ 「鹿児島県人権教育・啓発基本計画（2次改定）」 | 鹿児島県 |
| ・ 「人権教育研修資料 なくそう差別 築こう明るい社会」 | 鹿児島県教育委員会 |
| ・ 「人権教育指導資料 仲間づくり」 | 鹿児島県教育委員会 |
| ・ 「全校一斉方式ソーシャルスキル教育」 | 図書文化社 |
| ・ 「クラスが変わる！子どものソーシャルスキル指導法」 | ナツメ社 |
| ・ 「グループ体験によるタイプ別学級育成プログラム」 | 図書文化社 |